

イーハトーブ

関西岩手県人会報 第3号

2006年2月16日発行

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900

大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内

Tel & Fax 06-6344-5969

発行代表者 堯 律子

編集代表者 松坂定徳

平成18年新春懇親会盛大に開催される

平成18年度の新春懇親会が1月28日(土)12時30分から「ホテル日航大阪」32階のジェットストリームで開催された。来賓として岩手県から上村俊一出納長、佐藤亨出納局総務課主任主査をはじめ、黒岩理兵庫県産業労働部長、近畿青森県人会須郷満会長、石山謙司広島岩手県人会会長、佐藤耕吉京都岩手県人会副会長、高速オフセットの梶浦美津留(県人会50年誌印刷)各氏のご臨席をいただき、会員90人が参加して盛大に開催された。会員各位は1年ぶりの再会とあって、「やあーやあー。お元気でしたか!」と挨拶を交わす声が方々から聞こえた。大阪の市街地が一望でき、西は神戸まで見渡せるパノラマが広がる地上100メートルからの眺望が売り物の会場は定刻にはほぼ満席となった。拍手で来賓をメインテーブルに迎えたあと、堯会長が新年の挨拶と昨年5月に開催した50周



上村俊一岩手県出納長(中央)

年祝賀会が盛大に開催された事へのお礼を述べるとともに、新しい50年を踏み出すにあたり、今後ますます会員の交流と親睦を深めていく努力をしていきたいと決意を述べた。続いてご来賓の上村俊一出納長から増田寛也知事の祝辞が披露されるとともに、市町村合併など岩手県の現況が紹介されたあと、小沢一郎、穀田恵二両衆議院議員から拝受した祝電披露、泉秀二顧問の乾杯の発声で賑やかに懇親会がスタートした。会場には JENGO の「県産品即売コーナー」が特設され、県事務所の職員が半天を着込んで販売に当たった。ホテル自慢のバイキング料理の中には、特別注文した「いものこ汁」も加えられたが、あっという間に売り切れてしまう人気で、参加者は思い思いにふるさとの味を噛み締めていた。宴もたけなわとなった所で、堯会長の知人文屋淳さんの歌謡ショー。甘いソフトな声でシャンソンなど得意

のナンバーで魅了したあと、岩手出身の千昌夫の「北国の春」や「星影のワルツ」になるとステージに駆け上がる会員が多く、たちまち大合唱団が誕生、代わる代わるマイクを持って歌い上げ、会場は大いに盛り上がった。続いてお楽しみ



「北国の春」を熱唱する大合唱団

の福引抽選会。ホテル提供の「ペアの宿泊券」やブランドのバッグやネクタイなど、抽選番号が読み上げられる度に歓声とため息が交錯した。特等の景品が当たり喜ぶ顔。仲間の喜びを祝福する顔。会員の嬉しそうな顔を見ていると、思わず嬉しくなる。今年も良い年でありますようにと祈らずにはいられない。あっという間に予定の2時間が過ぎ、柏山副会長の閉会の挨拶でお開きとなった。今年はお土産として、郷土岩手の名産品に加え、去年50周年祝賀会で約束した「関西岩手県人会50年誌」と世界文化遺産指定を目指す平泉のガイドブックとDVD が配布された。

松坂定徳

県人会に電話とFAX、Eメールが開通!
会員皆様の情報・原稿をどんどんお寄せ下さい。
電話&FAX 06-6344-5969
E-mail: k7iwatek@w8.dion.ne.jp

大阪駅前第1ビル9階の関西岩手県人会の事務局(青森・岩手・秋田合同事務所の会議室)には、毎週水曜日事務局をはじめ、役員がボランティアで出勤しています。どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

奥州市、八幡平市誕生！

県内の市町村35市町村に再編

岩手県は2006年3月までに現在の58市町村から35市町村に再編されることが確定した。新・盛岡市は人口30万人を超えて中核都市の要件を満たし、県南には奥州市、新・一関市、新・花巻市と人口10万人規模の市が誕生し、県内第2の都市だった北上市は、これら3市に続く5番目の人口規模になる。すべての合併が完了すると、岩手県は現在から23市町村減って、35市町村となる。特に人口1万人以下の町村は、現在の23から9に減少する。

新自治体は以下のとおり。

新自治体名	構成市町村	合併期日 人口
宮古市 ミヤコシ	宮古市、田老町、新里村	H.17.6.6 63,223 人
八幡平市 ハチマンタイシ	西根町、松尾村、安代町	H.17.9.1 32,485 人
一関市 イチノセキシ	一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村	H.17.9.20 130,373 人
遠野市 トオノシ	遠野市、宮守村	H.17.10.1 33,108 人
西和賀町 ニシワガマチ	湯田町、沢内村	H.17.11.1 7,983 人
花巻市 ハナマキシ	花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町	H.18.1.1 107,175 人
洋野町 ヒロノチョウ	種市町、大野村	H.18.1.1 20,465 人
二戸市 ニノヘシ	二戸市、浄法寺町	H.18.1.1 33,102 人
盛岡市 モリオカシ	盛岡市、玉山村	H.18.1.10 302,857 人
奥州市 オウシュウシ	水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村	H.18.2.20 133,056 人
久慈市 クジシ	久慈市、山形村	H.18.3.6 40,178 人

岩手日報ホームページより

中学生バレーボール選抜全国大会

日本バレーボール協会主催「全国中学生都道府県代表選手権大会」は、大阪府立体育会館ほかで開催され、岩手チームは男女とも2日目の12月25日に登場した。男子は大阪市立体育館、女子は大阪府立体育会館行われた。選手と結果は次の通り。

男子：小原拓也（江刺市立江刺第1中学校3年）、高橋諒次（盛岡市立松園中学校2年）、小林隆佑（滝沢村立滝沢南中学校3年）、及川和寿（江刺市立第1中学校3年）、伊藤康宏（盛岡市立乙部中学校3年）、小川貴大（紫波町立紫波第1中学校2年）、熊谷宥太（盛岡市立乙部中学校3年）、小野寺健斗（盛岡市立見前南中学校2年）、藤田元気（盛岡市立飯岡中学校3年）、阿部關（大迫町立大迫中学校3年）、菅村幸彦（江刺市立第1中学校3年）、佐々木翔哉（大迫町立大迫中学校3年）

対戦結果：予選リーグで残念ながら敗退。

岩手0-2佐賀 岩手0-2山梨

女子：佐々木詩織（盛岡市立厨川中学校3年）、佐藤愛弓（陸前高田市立小友中学校3年）、小田成美（雫石町立雫石中学校3年）、及川頌子（大船渡市立越喜来中学校3年）、中川美波（雫石町立雫石中学校3年）、小原夕佳（盛岡市立見前南中学校2年）、佐藤栞（盛岡市立北松園中学校3年）、及川舞（大東町立奥田中学校3年）、佐々木沙耶（陸前高田市立気仙中学校2年）、武藤美緒（盛岡市立見前南中学校3年）、三浦瑞恵（釜石市立釜石東中学校3年）、佐々木南（雫石町立雫石中学校3年）

対戦結果：予選リーグ突破

岩手2-1島根 岩手2-0京都

決勝トーナメントは残念ながら1回戦で敗退

岩手0-2福井

女子チームは、東北大会のリーグ戦で全戦全勝し、例年がない強力チームと期待されていた。本大会の予選リーグでは2勝したが、応援していた保護者からは「勝つには勝ったが、いつもの切れ味が見られない」と厳しい声が出ていた。決勝トーナメントではジュースを何回も繰り返しながらかも、連続得点をあげることが出来ず、無念の敗退となった。全国大会の雰囲気にも負けたのかも知れない。 松坂定徳

一関学院 3年連続入賞ならず

＝全国高校駅伝競走大会＝

男子第56回、女子第17回全国高校駅伝競走大会は平成17年12月25日（日）、京都の都大路で繰り上げられた。昨年、一昨年と輝かしい連続優勝を果たした高校駅伝の実力校一関学院高校は、今年も入賞を目指し練習に励んできた。今年入賞すれば3年連続入賞となり、岩手県の高校としては新記録を樹立することになり期待が高まっていた。しかし、岩手県代表となった時点で多くのレギュラーを卒業させたこともあり、全国レベルではタイムに歴然とした差があり入賞の可能性は薄かったが、強化のトレーニングに努め、再構築を行った結果、チームの実力もレースが近づくにつれて記録が向上、入賞の可能性も出てきた。佐々木昭治校長も「3年連続入賞の可能性も見えてきた」と期待を述べていたが、結果は13位に終わり、あと一步のところまで入賞を逃した。

しかし各校のレベルが上がり、30秒の僅差で順位が入れ替わる激しいレース展開の中で13位と健闘したのは見事だった。なお、第78回選抜高校野球大会に、「希望枠」として一関学院が選ばれ、春の甲子園に出場することになった。

女子代表の花巻東高校は、体育・知育に力点を置いているスポーツ万能有力校であり、男子は夏の全国高等学校野球選手権大会で岩手県代表となり甲子園に出場した。今年も女子駅伝では都大路を駆ける岩手代表の栄冠を勝ち得たが、力及ばず45位に終わった。関西岩手県人会では、会員を代表して役員有志が「男子代表・一関学院高校」と「女子代表・花巻東高校」の宿舎を訪ね、出場記念のトロフィーを贈り、選手一同を励ます激励会を行った。

松坂定徳

黒沢尻北ベスト8ならず

「今魂を燃やせ!」「ひたむき」「挑戦」を合言葉に花園に登場した黒北は、盛岡工業、黒沢尻工業の2強に独占されていた高校ラグビー岩手県代表の座を勝ち取っての出場。昨秋の県新人大会から県高校総体、県民体育大会も優勝、県内完全制覇を遂げた黒北は花園出場をかけた県大会でも盛岡工を14-0で下し31年ぶり2回目の出場を果たした。盛岡工業、黒沢尻工業以外で県代表になったのは黒北と、黒北の現監督八木監督が前任地で出場を果たした宮古高2校のみという事もあり期待は高まった。関西岩手県人会では12月26日、大阪天王寺区の宿舎で黒北フィフティーンの激励会を行い、トロフィーと金1封を贈呈した。引き続き黒北同窓会の関西黒陵会山田会長からは31年ぶりに出場した

後輩への励ましの言葉と会員から寄せられた激励金が手渡された。1回戦Bシードになった黒北は12月30日2回戦からの出場。



見事な応援の黒北応援団

対戦相手は1回戦を勝ち上がった山口代表の萩工業。スタンドには北上からバス12台で駆けつけた1.2年生をはじめ、黒陵OB、県人会などおよそ500人の応援団がつめかけ、黒北カラーの黒と赤の小旗を振っての応援。黒北は前半2トライで先制したが、その後は一方的にボールを支配され、一旦は逆転された。しかし後半15分過ぎから反撃に転じ4トライを連取、終了間際に萩工業に認定トライを許したものの36対24で快勝した。ベスト8進出をかけた正月元旦の3回戦は、バックスの攻撃力を誇る同じBシードの長崎北陽台との対戦。この日雨か雪との予報に反して曇りつつない穏やかな天候に恵まれ、スタンドは汗ばむほどの陽気。「寒い方が有利だったのに」とは、スタンドで聞こえた陰の声。試合は先

制をされた黒北が前半13分にトライを返し同点にしたものの、その後は一方的に攻められ、結局34対7で敗れ、県勢として6年ぶりのベスト8進出はならなかった。県大会では2トライしか許さなかった自慢のディフェンスに綻びが生じ、相手バックスに走られてしまったのは残念だった。しかし黒と赤のジャージーの黒北フィフティーンの健闘は、バンカラ風リーダーの下に懸命の応援を続ける応援団とともにグラウンドにさわやかな風を巻き起こした。元旦を花園で迎えられたことは、同窓の一人として幸せだった。県事務所、県人会の皆さんの応援に感謝するとともに来年の県勢の健闘を期待したい。

鎌田龍児

“いつの時代でも人は神仏に祈る”

—歌手・千昌夫の秘話—

陸前高田市竹駒町に近郷近在を守護する竹駒神社がある。現在は伊達政宗の勧請によって、里に近い小高い杉山の中に鎮座しているが、建立時(天平6年)には同村の深山にあつて、日本最古の黄金産出の地、玉山金山(たまやまきんさん)内にあつて、金山の守護・繁栄と地域鎮護の神社として崇敬された。この地には竹駒町出身の歌手千昌夫(阿部健太郎君)がいる。彼は高校の修学旅行中に作曲家遠藤実氏を訪ね、熱心に自己PRに努めて歌手の道に進んだ話は有名であるが、彼が精神的に苦悩し自らの運命と葛藤していた頃の秘話がある。彼はやっと歌の道に進み初めて自分の曲をいただき「星影のワルツ」をレコーディングした。しかし一向に売れる気配がなく、自信を喪失して郷里に帰り、転職を考えながらも諦め切れずに竹駒小学校の恩師菅野千里先生(竹駒神社・宮司)を訪ねた。「星影のワルツ」を吹き込んだが、さっぱり売れない。先生!レコードが売れるように祈禱して下さい」と真剣な顔で訴えてきた。千里先生は彼の並々ならぬ心境を察し、神前に連れて行き正座させて、太鼓を打って神事を務めたあと、「必ず芽が出るから諦めずに頑張りなさい」と励ました。東京に戻って数ヶ月経ったある夜「先生、少しずつ売れてきました。有難うございます」と、元気な声で嬉しい報告とお礼の電話があつた・・・と話してくれたのは、宮司の菅野千里・シズエ夫妻である。その後発売された「北国の春」も大ヒットして、千昌夫は歌手として不動の地位を築くことになった。彼の歌は今でも多くの人に愛唱されている。努力した人に神仏の加護があるのか。人は苦しい時は神頼みする。この習慣は今も変わらない。世の中には、嘘のような本当の話や摩訶不思議なことが現実存在する。「事実は小説より奇なり」と言ったのは、岩手の先輩・高橋敬三アナウンサー(前東京岩手県人会会長)である。現在同神社の宮司は千里先生の孫・菅野哲彦氏である。菅野千里先生の父もシズエ先生の父(高田町・浄土寺住職)も、筆者の祖父の弟である。

松坂定徳

関西アテルイ・モレの会表彰される

～水沢市閉市式～

水沢、江刺、前沢、胆沢、衣川の5町村が2月20日に合併し奥州市が誕生するのに伴い、7日水沢市の閉市式典が市文化会館で行われ、市民をはじめ、行政や商工関係者、近隣市町村長ら700人が出席し、約半世紀の水沢市の歴史に思いを巡らせながら新市・奥州市の発展を願った。席上各分野で功績のあった個人19人と11の団体に高橋市長から感謝状が贈られ、「関西アテルイ・モレの会」は清水寺に立派な碑を建立し水沢市と関西圏との交流に貢献したとして教育文化功労部門で表彰された。式典後、市内のホテルで「市民の集い」が開かれ、市長、助役、来賓、アテルイの会で知り合った人達と今後とも益々交流・親善を図ることを誓い合った。最後に後藤前市長の「アテルイ締め」で会を締めくくったが、高野長英、斉藤実、後藤新平など多くの偉大なる人物を輩出してきたわが水沢市の名前が消えてしまうほろ苦さを胸に、大雪の水沢を後にした。

関西アテルイ・モレの会代表で出席して… 柏山 喬



関取 栃乃花

九戸郡山形村出身の栃乃花は平成18年初場所、西前頭3枚目で登場し、岩手県が誇る唯一の力士として堂々と横綱陣を中心に上位と対戦した。結果は黒星先行であったが、8日目の横綱朝青龍との対戦は、平成12年九州場所以来で久々に胸が熱くなる思いであった。一時は幕下まで番付を落とし力士の限界をも心配したが、岩手の厳しい自然に培われた持ち前のバイタリティーで自他共に認める底力を発揮した。特に7日目に、準優勝した白鵬を破った白星は天晴れである。国際色豊かな角界ではあるが、一層の健闘を望むものである。とかく角界に限らず若者指向であるが、栃乃花(32)をはじめ、魁皇(33)、春日錦(30)、出島(31)、豊桜(32)、時津海(32)、栃栄(31)、土佐の海(33)、北桜(34)と、東西前頭では30代が30%を占めるパワーである。春場所(大阪)では若干の番付変更はやむをえないと思うが、大いなる健闘を祈るものである。なお、3月6日付けで山形村は市町村合併で久慈市となる。新久慈市の名を全国に馳せてほしいものである。



藤原照雄(久慈市出身)

❖ 会 員 短 信 ❖ 会 員 短 信 ❖

パール博士生誕120周年記念行事

1月27日(金)インド総領事からのご招待と言うことで、

我々近畿仙幼会・近畿偕行会(往時の陸軍士官学校を中心とした会)・日印文化協会とインド側有志の方々とパール博士の遺影に花を捧げながら日印友好の茶話会を開きました。参加者は日本側30人、インド側20人。オーム・プラカーシュ総領事の「今後ますます日印友好の輪をひろげて行きたい」との挨拶のあと、橋詰仙友会会長、本郷事業委員長が、それぞれ「東京裁判の判決で、11人の判事のうち、ただ一人国際法の権威であるパール判事が日本無罪の判決を出された勇気と功績に感謝し、日印外交親善のシンボルとして、その信念を有意義に継承実行して行きたい」と謝辞を述べたあと、簡単なインド料理と飲み物で総領事ご夫妻を中心に日本語、英語が飛び交う歓談の輪が広がりました。最後に謡と日印両国語で万歳三唱を唱え、賑やかなうちにも成功裏に有意義な会は終わりました。 柏山 喬

事 務 局 掲 示 板

今年の行事予定

3月中旬 選抜高校野球応援(一関学院)

3月13日抽選が行われ、試合日程が決まります。試合当日は開始1時間前に県人会の旗の所(甲子園球場前の高速道路の下)に集合して下さい。入場券を配布します。

5月20日、21日「風の道しるべ」公演～宮澤賢治の世界をミュージカルで表現～

兵庫県立芸術文化センター中ホール

6月21日 決算役員会

7月22日 平成18年度総会(増田知事出席予定)

8月初旬 夏の全国高校野球応援

9月21日 日帰りバス旅行 比叡山(延暦寺)方面

10月 ジェンゴ市 北東会ゴルフ

11月下旬 桐の会例会 役員会

12月下旬 高校ラグビー出場校激励・応援

会員動向(敬称略)

新入会

飯澤宇雄 大東町

648-0019 橋本市あやの台1-29-2

伊藤寿彦 北上市(昭12)

669-1323 三田市あかしあ台1-4-15

退会

石田正郎 瀬野信雄 中村五郎 窪田晃 坂本謙二

編集後記

今号は新春懇親会の和やかな交歓を写真でお伝えする予定にしていたが、材料が揃わず少し堅苦しくなりました。また時節柄、県勢のスポーツ大会の記事が多くなった。会員の皆さんからの投稿を期待したい。(龍)